

広報

あいづばんげ

11 2016 No.627



特集

“地域の絆” 秋まつり

ぼんげ 秋まつり



9月17・18日の2日間にわたり、「ぼんげ秋まつり」が開催されました。両日ともにあいにくの雨となりましたが、秋まつりの見所の一つでもある旧町内それぞれの自治会でこだわった「仮装山車コンクール」が盛大に行われ、多くの観客が役場前通りに集まり、素晴らしい山車やパフォーマンスに拍手を送っていました。もともと諏訪神社祭礼の際に町内対抗の仮装行列が行われていましたが、昭和57年ごろに古坂下の山車にねぶたが取り入れられたのを発端に、現在のような形になりました。以来、各自治会をあげてのイベントとして、まつりの約1か月前にはどこの自治会でも寝る間を惜しんで作品の制作に取り組んでいます。今回は、旧町内のうち3つの自治会にご協力いただき、秋まつりに込めた思いや山車づくりの制作風景などについて取材をしました。



旧町内自治会が、ライトアップされた山車や太鼓台を引いて役場前通りを歩く提灯行列。

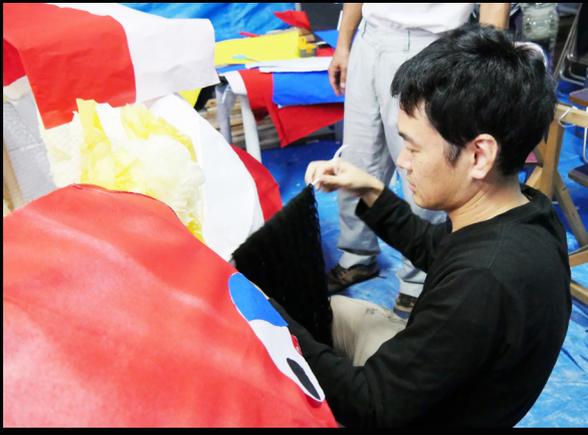


天狗様に先導され、町内を練り歩いた神輿渡御。



本まつりで予定されていた稚児行列は、雨のため中止に。諏訪神社内において稚児のご祈祷が行われた。





仲町

—自治会としてこだわっている部分はありますか？

心がけていることは、何よりも「楽しくやろう」ということです。仲町は人口も少なく、大勢の人数で大きなものを作るといことはできません。なので、中心となって制作している私たち若手会が、無理せず楽しく取り組むことを大切にしています。数年間同じメンバーで制作しているのですが、今ではもう塗装や組み立てなどそれぞれの部分でお互いを信頼できるようにしました。

また、山車のテーマを決めるにあたっては、子どもの要望を取り入れすぎないというのにも信条です。秋まつりは若い人たちだけではなく、お年寄りの方も楽しみにして見に来てくれます。子どもだけが知っている



仲町若手会 会長 佐竹源弘さん

作品やキャラクターを取り扱ってしまったら、それらを知らない世代は山車をもたもたしません。なるべく幅広い世代が知っている作品・キャラクターをテーマに、というのは、私たちがこだわっている部分の一つです。もう一つ、見てほしい部分は、本まつり当日に行う役場前コントです。毎年行っていますが、見てくれるひとが笑ってくれるような時間にできればいいなと思っています。

—苦労している部分はありますか？

やはり、何といっても人数が少ないので、婦人会の方などにも手伝っていただきながら、若手会9名で山車づくりをしているのが現状です。夜に集まって少ない人数でつくるので、なかなか細かい仕掛けなどを作れないのが悩ましいところです。

—今後の目標はありますか？

坂下地区の運動会ですが、やはり町内の親睦を図るのが最大の目標だと思います。また、記録よりも記憶というところで、制作期間どう作ったか、という過程は今後も大事にしていきたい部分です。小さい規模でも、毎年楽しく続けられるような、祭りが終わってさみしいなあと思えるような、充実した期間を今後もこの時期過ごしていきたいと思っています。





新栄町若い会 副会長 平野大地さん

新栄町

—自治会としてこだわっているとこ
ろはなんですか？

ねぶたの色をいかにきれいに見えるようにするかというところですね。他の自治会では、紙の色付けは自分たちで行っているところもあるかと思いますが、新栄町では作業時間の短縮や仕上りの均一さのため、既製品の紙を使っています。色の種類も多くありますので、サンプルを取り寄せて、日光で見た時の色と、夜にライトを当てた時の色の両方を見て、実際に使用する紙を選びます。また、秋まつりは何ととっても子どもが主役のイベントだと思おうので、子ども会が中心となり、多くの子どもたちに活躍してもらい、若手会や自治会はそれをサポートすると

いう立ち位置で本番当日までの準備などを進めています。

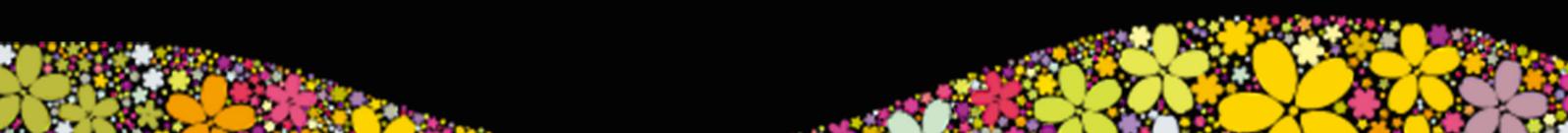
—苦労している部分はなんですか？

ねぶたの制作はもちろんだ大変ですが、まずテーマを決めて、レイアウトを決めて、会議を重ねて…という段階を踏んで進めなくてはよいものは作れませんので、その辺の積み重ねは大変でもあり、大事な部分だと思っています。また、山車の制作場所は現在坂下南倉庫を借りていますが、シャッターが開く範囲の大きさのねぶたしか作れないというのがもどかしい部分です。特に高さには制限があるなか、高さ以外のところはどうやって迫力を表現するかということには苦労しています。

それから、新栄町は決して人口は少なくはないのですが、秋まつりの準備や制作をする人があまり集まりません。みんなで一丸となって取り組める大きな行事ですので、もっといろんな人に足を運んでいただければ、さらによいものが作れるのではないかと思います。

—今後の目標はなんですか？

最優秀賞をとることですが、一番はみんなが仲良くなれるきっかけになるので、わいわい楽しめる行事として続けていけたらいいと思います。





新町

— 山車づくりで苦勞するところはどこですか？

まず、本番に向けてのスケジューリング作りです。山車の制作に入る前の山車小屋作りのような準備段階を含

新町では、まず台車の上に乗る山車の数の多さにこだわり、なるべく多くの種類を作るようにしています。また、実際に審査されるのは昼間の本まつりですが、宵まつりでライトアップしたときにもきれいに見えるよう、紙の色を決めています。そのため、実物のキャラクターの色合いと山車の色とは少し違ってみえるかもしれません。

— 自治会としてこだわっている部分はありますか？



新町若新会 会長 さかいたかし 酒井崇敦さん

— 今後の目標はなんですか？

以前、新町は20回連続最優秀賞をとった時代があったそうです。なので、再び仮装山車コンクールで連覇をするというのが目標です。

— 新町にとっての「秋まつり」とは何ですか？

一番は、町内の仲間との絆を深める大きな機会であると思います。秋まつりが終わると坂下地区の運動会がありますが、この期間に培った一体感をもって運動会にも臨むことができます。山車を完成させるには、いろいろな団体の協力があつてこそです。子ども会・婦人会・若手会や寿楽会の方々のおかげでできていることなので、地域のつながりを強く感じられる行事の一つだと思っています。

めると、本番の2か月前からいから動き始めるよう計画を立てます。ここを間違えると本番に間に合わなくなってしまうので、しっかりとスケジュールを組む必要があります。

また、山車づくりが本格的に始まると、夜はほとんど家にいる時間がないため、家族には一番迷惑をかけてしまっているなと感じています。ですが、その家族の支えにより納得がいく作品をつくりあげることができるので、とても感謝しています。



仮装山車コンクール

結果発表！

茶屋町



美術賞
「スーパーマリオ」

緑町 優秀賞「和ンピース」



鉄砲町



ライオンズクラブ賞「干本桜」

新町



技術賞「ポケモンズ」

仲町



ユーモア賞「回廊ヨシ」

新富町



ファンタジー賞「ONEPIECE」

諏訪町



国際ソブテミストばんげ賞
「STAND BY ME ドラえもん」

古坂下 優秀賞「暗殺教室」



小原



青年会議所賞「ゴジラ VS モスラ」

桜木町 最優秀賞「ディズニーワールド」



上町
回一タリ=クラブ賞「ONEPIECE 上町 GOLD」



柳町
道の駅あいつ賞「TOYSTORY」



本町
工業振興協議会長賞
「『海賊王』ワンピース。本町.com」



新栄町
アイデア賞「ドラ松さんと魚」



橋本
商工会長賞「アリスインワンダーランド」

当日は、雨の中での審査・パフォーマンスとなりましたが、太鼓台のにぎやかなお囃子や、子どもたちの元気な声がそこかしこに響き、熱気あふれるコンクールとなりました。

今年、山車の制作に際してお話をお聞きした3つの自治会で共通していたのは、「秋まつりは地域の絆が深まるきっかけとなる行事」だと話されていた点です。

今回取り上げることができなかった自治会でも、仮装山車コンクールでの作品は、地域が一丸となって作り上げてきたものの集大成であったことでしょう。

また、限られた時間のなか、秋まつりに向けて山車の制作や準備に一生懸命取り組む大人の姿は、子どもたちにとって何よりも尊敬できるまぶしいものだったかと思えます。

地域が一体となって作り上げる、「ぼんげ秋まつり」。今年も大盛況のうちに、幕を下ろしました。